言者ムハンマド

：

明:神の 言者であるムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）の容姿 性格の概 。

目: 事 言者ムハンマド彼の

より: IslamReligion.com

日06 Dec 2009

集日 25 Sep 2023

“??”????????????

これが、ジャ ビル ブン サムラ
によって描写された、最 の 言者、敬虔なる者たちの 、信仰者たちの王、慈悲遍き御方
により ばれた神の使徒ムハンマドです。

彼は丸 で白い肌の持ち主でした。彼の の毛は耳たぶに届くほどの さで、 く い髭をたくわえていました。彼の は嬉しい には光り き、声に出して笑う代わりによく微笑みました。彼の瞳は いまつ毛によって覆われており、眉毛は弧を描いていました。彼の美しさは、マディ ナのラビ（ユダヤ教の宗教的指 者）の だったアブドッラ ブン サラ ムが彼の を目にした 、このような高 な の持ち主が嘘つきであるはずがない、と宣言したほどです。

彼は中背で、身 は高くも低くもありませんでした。彼は前かがみに き、革サンダルを着用していました。彼のズボンの丈は の中 、またはくるぶしのすぐ上まで垂れていました。

また彼の背中の左肩のあたりには、‘ 言者の印’がありました。それはおよそ の卵ぐらいの大きさで、ホクロのようなシミが点在していました。そして彼の手の平は、 のよりも柔らかかったと えられています。

また彼がやって来ると、あたりから芳しい香りが漂ってきました。彼の汗の はまるで真珠のようであったと言われています。彼の教友たちが彼の汗を集めて香水に混ぜると、更に良い香りになったそうです。

イスラ ムの教えでは、もしも かが の中で 言者を るという祝福に与かったのであれば、その人物は に彼を たのであるとしています。

彼はたびたび い に渡って沈 したこともありましたが、その には非常に威 があったと言われています。

また彼は、 す には真 だけを し、その声は耳に心地よく きました。彼は今日の人々が すような早口ではなく、周 の人々が言ったことを できるような、はっきりとした口 でした。彼の言 は、もし かがその言 を数えようとしたのであれば、容易にそう出来ただろうと言われています。彼の教友たちは、彼は下品でも不作法でもなかったと述べています。彼は人々を らず、虐待もしませんでした。そして叱 する には、ただ次のような言い方をしました:

“??????????????????????????”??????????????

彼にとって最も嫌 すべき行 とは嘘をつくことでした。彼は には自分の言 を二度、または三度と り返し、 く者がしっかりと理解出来るようにしました。彼は 教を短く ませました。そして 教の にはあたかも の 来を警告するかの如く、目を充血させ、声を り上げ、感情をあらわにしたそうです。

彼は　や浪 をせず、 素な暮らしをしました。彼は 世的な暮らしに背を向け、それを て去ったのです。彼は 世というものは牢 であり、　などではないと なしていました。彼がもしそう望めば、欲しいものを何でも手にすることが出来ましたが、それを拒否しました。彼は自身の暮らしを 世的な暮らしでもって交 したりはしなかったのです。彼は 世が なる回廊であり、永住の ではないことを知っていました。彼はそれが通 点であり、目的地ではないことを完全に心得ていたのです。彼はその　を理解していた。それが い のようなものであるということを。

それにも わらず、神は彼を 乏の状 から富ませたと仰せられます：

“??????????????????????????”??????93?8?

Aisha, his wife, said:

また彼の妻の一人であったア イシャはこう述べています：

“???”?????????????????????????

彼女によると、マディ ナへの移住から彼の逝去までの十年 の 、ムハンマドの家族が小麦のパンを三日　で 足に食したことは、ただの一度もなかったそうです。

その上、彼は深夜に起き上がり、礼 を捧げて神に感 の 持ちを表していました。その礼の余りの さゆえに、彼の 足は れ上がるほどだったのです。彼の妻たちが、なぜそこまで 心に崇 が出来るのかを彼に ねた 、彼の唯一の言 は次のようなものでした：

“??????????????????????”??????????????????????????

教友の一人だったウマルは、　の日々を回想しながら言っています。 言者は には えをしのごうとしても、腐ったナツメヤシさえ つけることが出来なかったと！

の教友であり、 言者 代の 言者でもあるアブドッラ　ブン マスウ ドはこう えています。ある ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）が眠りから めた 、その体にナツメヤシの木の で

出来た敷物による が刻み まれていたため、彼はこのように えました:

“??”

彼は答えました:

“??”???????????

史上の 々な征服者たちは、血の川を流し、どくろのピラミッドを建てたことで知られます。ムハンマド（神の称 あれ）はその慈悲深さで知られていました。彼は いにおいて以外、 して不正への 　として、女性や召使いに手を上げたりはしませんでした。彼の慈悲深さは、八年 もの 追放された 、征服者としてマッカ入城をした日の出来事に如 にて取れます。

言者は彼を迫害し、更に狂人、 人、 　に取り かれた者というレッテルを り、彼を家族と共に3年 岩だらけの山岳地 に追放した人々を赦したのです。彼は自分を朝に夕に迫害した、最も 意に ちていたアブ　スフヤ ン、そして　さで知られていた奴 ワハシに命じてイスラ ムに改宗した 言者の叔父を させた上、その 体を　し、さらに肝 を取り出してそれに み付いたアブ　スフヤ ンの妻ヒンドまでを特赦したのです。その 、彼らはイスラ ムへと改宗しました。高 で　な神の使徒以外に が、このような崇高な性格であることが出来るでしょうか?

マッカに住んでいたワハシは、 言者の叔父 害の任 を果たすことによって自由民となることが出来ました。マッカにおいてイスラ ムが支配的となったとき、ワハシはマッカからタ イフへと逃亡しました。やがてタ イフにもムスリムの 力が及びました。彼は、イスラ ムを受け入れた者は、いかなる者であったとしても、ムハンマドによって赦されていることを耳にしました。彼の罪は途方もなく大きなものでしたが、ワハシは勇を出して慈悲深き 言者のもとを れてました。そして彼がイスラ ム改宗を宣言すると、ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）は彼を赦したのです。

彼の慈悲は、ハッバ ル ブン アスワドにまで差し伸べられました。 言者の娘ザイナブがマッカからマディ ナへと移住した 、ハッバ ルを含むマッカ は彼女らを阻止しようと み

ました。彼は妊娠中だった 言者の娘をラクダから振り落とし、それが原因で彼女は流
しました。この罪の意 から彼はイラン方面へと逃亡しましたが、神は彼の心を 言者の
もとへと向けさせたのです。それで彼は 言者の裁きの に赴いて自身の罪を め、信仰宣
言をしたことによって、 言者により赦されたのです。

ムハンマド（神の慈悲と祝福あれ）は、神のお しによって 多の物理的奇 を起こしまし
た。彼が に指を向けただけで、月は半分に割れました。??????
として知られている神秘の旅では、???????
という天 に ってマッカからエルサレムまで一夜にして移 し、全ての 言者たちを礼 で先
し、七天を超えて彼の主に しました。彼は病人、盲人を し、 依された者から 魔を去ら
せ、指から水をほとばしらせ、さらに彼の食べ物は神を えました。

それにも わらず、彼は人々の中でも最も 深い人物でした。彼は地面に座り、地面で食
べ、地面で寝ました。ある教友によると、もしも 言者がいた集まりによそ者が入って
来たのであれば、彼の控え目な 度から が 言者で が教友か 分けがつかなかっただろうと
述べています。彼の召使いだったアナスは、彼へ奉仕した九年 の内、非 はおろか叱咤
されたことさえ一度もなかったと誓っています。彼の周 の人々は、ムハンマドが余り
にも慎み深かったため、幼い少女でさえ彼の手を引き、どこでも好きな所へ れて行く
ことが出来たほどだったと 明しています。また彼はたびたび 力なムスリムたちの元を
れ、病人を 舞ったり、葬 に参列したりしました。彼はいつもキャラバンの 方に留まっ
て弱者を助け、彼らのために祈りを捧げていました。また彼は未亡人や困 者などの要
望が たされるまで、彼らと共に くことをためらいませんでした。更に彼は奴 たちの い
にさえ じ、粗末な大麦のパンを彼らと食したのです。

彼は妻たちにとっても最善の男性でした。彼の妻ア イシャは、彼がいかに 虚であった
かをこう描写しています:

“??”????????????????

に、彼は自分の家族に して最善を尽くす人物でした。彼はその性格から、人々を追いうようなことは してしなかったのです。

これが、私たちが よりも すべき、高 な神の 言者です。神は彼についてこのように仰せられています：

“??”??????? 33?21?

この 事のウェブアドレス:

https://www.islamreligion.com/jp/articles/22

著作 2006-2015 断 を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 を禁じます。